

## (公財) 日本ヘルスケア協会から

発行：日本ヘルスケア協会 事務局

今回は、6月11日発行のニュースリリースNo.93以降の動きについてご報告いたします。

### 1. JAHlのPHIが推進するプラネタリーヘルスには、いよいよ多彩な動きが出始めています

2023年3月開催の第4回年次大会・基調講演(桐村里紗講師)を契機に、7月にはJAHlの中にPHIが設立されましたが、その後、国の内外ではプラネタリーヘルスをめぐる活発な動きが出始めています。

#### (1) スタンフォード大学に新大学院が設立され全学が連携してPH研究に注力

PHIの桐村代表理事と親交があり、現在スタンフォード大学ロースクールに在籍している南谷健太弁護士によれば、同大は2022年9月、70年振りに新しい大学院を開設し、同大学を構成するすべての大学院から豊富な専門知識を持つ研究者・学生が集いプラネタリーヘルスに関する研究環境を整えているとのこと。その主要な4つの分野は、①気候変動が健康に与える課題、②環境汚染と健康、③生態系と人間のウェルビーイング、④人と地球にとって健康的な食品、です。

#### (2) JR東日本と東京大学の協創プロジェクトにマルハニチロが加わり、人と地球に優しい食「プラネタリーヘルスダイエット」を追求

JR東日本と東京大学は2023年10月、100年先の心豊かな暮らしの実現に向けて、JR高輪ゲートウェイを拠点にプラネタリーヘルスの創出を目的とした協創プロジェクトを立ち上げましたが、そこに同拠点に本社を移転するマルハニチロ(株)が加わり、環境負荷の少ない魚食をリデザインすることを取組みの柱に据えています。一方、JR東日本と東京大学は、産・学・官・民が共に街を作るといふ、未来に向けての壮大なプロジェクトに取り組むということです。

#### (3) 第6回プラネタリーヘルスアライアンス年次総会がマレーシアで開催されました

2024年4月、マレーシアのサンウェイ大学で、同年次総会がアジアで初めて開催され、世界63ヶ国から約1000人の参加者が集いました。①プラネタリーヘルスのためのシステム変革(日本セッションでは省庁横断型の「気候変動適応法<2023>」の紹介)、②先住民と地域での視点(先住民の自然観を取り入れた開発事業)、③健康都市イニシアティブ(住民の健康を支える都市環境創り)等が議論され、プラネタリーヘルスロードマップと行動計画が提言されました。次回は2025年秋にオランダで開催される予定とのこと。

#### (4) プラネタリーヘルスアライアンス・JAPAN HUBが「PH Café & Bar」を開設されます

PHに関する国際組織であるプラネタリーヘルスアライアンスの日本支部が、日本におけるPHを形にとらわれず多分野の関係者と情報交換する場として、2024年7月、「PH Café & Bar」をオンラインで開設されました。今後はオフラインも検討されるとのこと。

#### (5) PHIは2024年3月の東京に続いて、8月に鳥取シンポジウムを開催します

PHIは3月に東京シンポジウムを開催し、大盛況を博しましたが、8月3日(土)には鳥取県、米子市、境港市、江府町の後援を得て、米子淀江文化センター(さなめホール)を会場に鳥取シンポジウムを開催します。その後も各地からの要請に応じて各地版を開催して行きます。

### 2. 「第2回中野どまんなか市」が計画されています

6月13日に試行された第1回が来場者300人超の大成功を収めたため、中野区役所とJAHlは直ぐに第2回目を計画しています。

今回はスケジュール、立地、規模等を十分検討の上、実施したいと考えています。

### 3. 昭和女子大「ビジネス開発研究B」の講座が今年もスタートします

ドラッグストアを中心としたマーケティング講座として人気のある同講座が、今年も10月にスタートします。

